

カ 門灯の一晩中の点灯（門灯点灯運動）

以前からしている 今後してみたい したいとは思わない
わからない

キ 地域周辺の安全マップの作成

以前からしている 今後してみたい したいとは思わない
わからない

Q7 Q6のア、イ、ウのいずれか1つでも「したいとは思わない」と回答された方にお尋ねします。そのような活動に参加したいとは思わない理由は何ですか。次の中からあてはまるものをお選びください。（いくつでも）

時間がないから

健康状態や体調に不安があるから

関心がないから

一緒に参加する知人や友人がいないから

必要性を感じないから

人との関わりを好まないから

取組を行うための支援（情報、ノウハウ、用品等）がないから

その他（

）

Q8 あなたのお住まいの地域は、子どもたちにとって、どのような治安状況だと感じますか。次の中からお選びください。（1つ選択）

危険だと思う どちらかといえば危険だと思う どちらともいえない

どちらかといえば安全だと思う 安全だと思う

Q9 Q8で「危険だと思う」又は「どちらかといえば危険だと思う」と回答された方にお尋ねします。そのように思われる主な理由は何ですか。次の中からお選びください。（2つまで）

子どもが被害者になる事件の報道をよく目にするから

地域で子どもへのつきまとい事案などが頻繁に発生しているから

通学路、公園等に防犯カメラが設置されていないから

学校での集団登校、集団下校が行われていないから

登下校の見守り活動など地域における見守り活動が行われていないから

その他（

）

Q10 お住まいの地域の子どもたちが犯罪に巻き込まれないためには、どのような取組が特に大切だと思いますか。次の中からお選びください。(2つまで)

- 登下校時などの子どもの見守り活動の強化
- 知らない人について行かないなど家庭における注意喚起
- 防犯ブザーなど防犯グッズ用品の携帯
- 安全マップの作成など学校における防犯教育
- ひょうご防犯ネットなど防犯情報配信システムの活用
- 通学路などへの防犯カメラや防犯灯の設置
- 民間によるGPS等を使用した登下校見守りサービスの活用
- 子どもを守る110番の家・店()の取組強化
- その他()

子どもが助けを求めてきた時、子どもを保護し、警察や学校等へ連絡する、地域で子どもを守る活動

Q11 あなたの家族に、未成年者(0~19歳)はおられますか。次の中からお選びください。(いくつでも)

- 0~6歳
- 7~12歳
- 13~15歳
- 16歳~19歳
- いない

Q12 犯罪被害者等()の支援にはどのような取組が必要だと思いますか。次の中からお選びください。(いくつでも)

- 犯罪被害者等が置かれている状況についての普及・啓発
- 弁護士等による法律相談
- 経済的支援(見舞金の支給、生活資金貸付等)
- 居住場所の確保
- 家事・子育て・介護など日常生活への支援
- カウンセリング、心のケア
- 電話相談、面接相談
- 医療面での支援(医療機関の紹介、医療費助成等)
- 裁判所等への付添い支援
- 支援団体の相談員・支援員の養成
- 警察、区市町、犯罪被害者等支援団体等の連携強化
- その他()

「犯罪被害者等」とは、犯罪被害者及びその家族または遺族をいう

Q13 犯罪被害者及びその家族等の抱える悩みの解決や心のケアなどを相談できる窓口について、次の中から知っているものをお選びください。(いくつでも)

- 警察における相談窓口
- 県や市町における相談窓口
- 犯罪被害者等支援に係る民間支援団体「公益社団法人ひょうご被害者支援センター」
- ひょうご性被害ケアセンター「よりそい」
- その他()

Q14 国では、再犯を防止()するための取組を進めていますが、どのような取組が必要だと思えますか。次の中からお選びください。(いくつでも)

更生についての広報・啓発活動の実施

住まいや就労など、安定した生活基盤を築くための支援

高齢者や障害のある者等への保健医療・福祉サービスの支援

薬物依存からの立ち直り支援

孤立を防ぐ環境づくりなど地域ぐるみでの支援

ボランティア(保護司、NPO等)等による生活面の指導

刑の厳罰化

刑務所等での矯正プログラムの充実

その他()

「再犯の防止」とは、犯罪をした者が再び犯罪をすることを防ぐこと

Q15 その他地域安全まちづくりに関するご意見、ご提案等があれば、自由に記入ください。

--